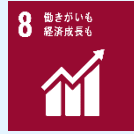


組織内情報資産に対する統合的アクセス 制御モデルの設計と実装

研究分野: データベース関連、情報セキュリティ関連

キーワード: 情報資産、統合管理、アクセス制御

貢献できるSDGsの区分:



情報システム学部 情報セキュリティ学科 教授 C.ソムチャイ

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/somchaic/>

研究概要

現代の組織において、情報は最も重要な資産のひとつであり、その適切な管理と保護は持続可能な経営の鍵を握ります。本研究では、組織内に存在する多種多様な情報資源に対して、総合的かつ効率的なアクセス制御の仕組みを構築・運用する方法について検討します。

近年の情報システムは、クラウドサービス、モバイルデバイス、リモートワークなどの多様な環境で運用されており、従来の単純なアクセス制御モデル(例: DAC、MAC)では対応が困難になりつつあります。本研究では、ロールベースアクセス制御(RBAC)、属性ベースアクセス制御(ABAC)、**ポリシーベース管理(PBAC)**などの最新のアクセス制御モデルを組み合わせ、柔軟性と統一性を両立する管理フレームワークの設計を目指します。

産学連携の可能性(アピールポイント)

本研究は、実際の企業活動における情報セキュリティの確保と業務効率の両立という現実的な課題に直結しており、産学連携の観点からも高い実用性と波及効果が期待されます。

- セキュリティと業務効率の両立支援: RBACやABACといったアクセス制御モデルを企業環境に適用することで、情報漏洩の防止と業務の生産性向上の両立が可能。
- DX・働き方改革の推進支援: リモートワークやクラウド活用が広がる中で、新しい働き方に対応した情報管理基盤の構築支援にも貢献します。

外部との連携実績等

2006年4月～2011年3月:「情報爆発に対応するコンテンツ融合と操作環境融合に関する研究」研究代表者:京都大学大学院情報学研究科 田中克己教授、分担者:チャットウィチェンチャイ ソムチャイ